

山口大学図書館報

Yamaguchi University
Library Bulletin

LIBRARY NEWS

ISSN 0388-5569

July 2008
No.77

目 次

山口大学図書館のさらなる発展のために … 1	トピックス … 8
がんばってます!! 学生協働 (LA) … 4	本学関係教員著作物寄贈図書 … 9
大学情報機構 2007 (オープンキャンパス)	平成 20 年度図書館関係委員会名簿 … 9
3 キャンパスで開催 … 5	図書館業務統計 … 10
新入生オリエンテーション開催 … 6	会議・研修・人事異動・編集後記 … 12
平成 20 年度図書館利用ガイダンス(4~6 月) … 7	

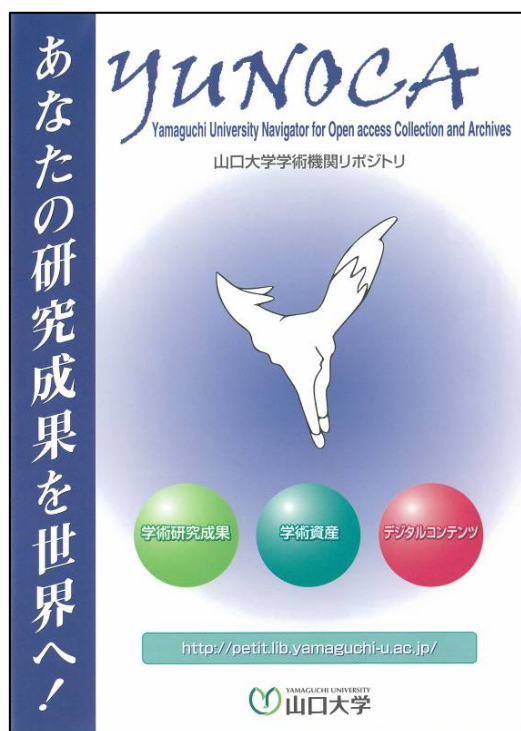
山口大学図書館のさらなる発展のために

山口大学図書館長 阿部 憲孝

福政館長のあとを継ぎ、この5月から図書館長を務めることになりました。福政館長が5年の長きにわたり、図書館の改革に取り組んで図書館の役割や概念の拡大を図り、山口大学図書館は新時代に適合する図書館の電子化を推進しているところです。この間、平成19年3月には「大学情報機構の現状と課題」が公表され、その中では、将来構想としての「山口大学学術情報センター（仮称）構想」にも言及されています。大学の法人化がなされて4年を過ぎ、本年度は中期目標・中期計画についての法人中間評価が行われ、続いて第二期の中期目標・中期計画の策定がなされます。本学においては昨年度山口大学ビジョンが公表され、山口大学がめざす姿が示されました。本学の発展は、ビジョンにおいて三本柱とされている教育・研究・社会連携を進展させるところにあり、学術情報に関しては、先進的かつユニバーサリティなIT環境の整備、全ての分野における多様な研究を支える

学術情報基盤の計画的整備、山口大学学術機関リポジトリ (YUNOCA) の充実と地域社会と国際社会への情報提供活動の強化などが謳われています。私は館長に就任してからまだ一ヶ月が過ぎたばかりですが、福政前館長にならい、山口大学図書館の現状を再確認するとともに、あるべき姿とその発展のために、また、次期中期目標・中期計画策定にむけ、課題と抱負についての一思考を述べてみたいと思います。

古来、図書館はアカデミアの中心として存在し、学問・研究の基盤としての学術情報を提供する場として、資料を収集・整理・保存して提供してきましたが、近年はあらゆる情報を提供する「ワンストップサービス」機関として存在意義を有してきました。しかし、学生は教養としての読書、試験対策の読書をする場として、また書籍、雑誌、資料の貸し出しサービスを得る場として図書館を利用し、さらに教員は研究資料を求める場としてのみ、図書館サービスを



考えているくらいがあります。昨今学生の活字離れが叫ばれ、また、情報の発達とともに、パソコンやインターネットを使って多くの情報が集められ、電子情報が氾濫し逆に理解不足を招く現状となっています。それゆえに、図書館は学生が夢育むキャンパスライフの拠点となるとともに、教員と図書館員が相互理解を深めて戦略的な収書と電子ジャーナルの運用を行い、学問・研究の情報基盤として、課題解決支援機能をさらに強化して行くことが肝要かと思えます。

山口大学図書館は、「自分を磨く」「知識を獲得する」「真理を究める」「情報モラルを高める」「知識を共有する」の5つの理念を掲げ、8つの目標をもって活動しています。また、山口大学図書館の存在意義と未来については、「大学情報機構の現状と課題」で適切に述べられており、また福政前館長が目指し、道筋をつけた改革（図書館の電子化の推進、山口大学学術情報サーチの導入、YUNOCAの構築、学術資産継承事業の立ち上げ、等々）は着実に進みつつあると思います。これは図書館スタッフの努力の賜物といえましょう。

しかし、今後求められるものは改革の成果であり、その評価が次の図書館の未来へとつながってきます。PDCA（Plan → Do → Check → Action）サイクルをいかに回すかが、今後に問われることになり、改革を進展させることにつながります。ますます、スタッフの企画力と実行力が必要とされることになるとともに、私としても館長としての責任を痛感します。今後の改革と取り組みについて、例えば、YUNOCAを取りあげてみると、現在ようやく論文データ等が集まりつつありますが、今後は、いかに研究者にフィードバックさせ、利用者の便宜に供



するかが問われてきます。研究者（特に文科系の研究者）にYUNOCAの重要性を認識してもらい、山口大研究成果の情報をさらに発信できるようにになれば、大学の発展につながりうるし、地域リポジトリや全国大学リポジトリに関連して、電子ジャーナルの問題に一石を投じることも可能になるかと思えます。この利用状況等の成果が法人の評価指標ともなりうる可能性もあります。また、学術資産継承事業におい

ても、単に修復・保存を行い、個々の研究者の便宜に供するのではなく、全学的な企画として県等と協力体制を築き、山口大学内のみならず、県内に存在する貴重図書・学術情報資産等の電子化を図るなどの事業に進みうるならば、多様な情報発信と地域への貢献となりえます。いかに山口大学が地域に大きな貢献が可能か等のグランドデザインを示し、評価に耐える成果をあげてこそ山口の地における学術資産の継承の拠点たりうるでしょう。次期中期目標・中期計画に図書館として何を企画し、盛り込むかは重要であり、これから図書館スタッフと議論を重ねたいと思っています。

大学は人材を育成する場であり、図書館は、人が担うものです。人材育成は学生の教育のみをさすのではなく、職員、教員のすべてが共育・成長すべきものでしょう。現在、図書館でも学生協働が進められていますが、さらに学生の主体性を活かしつつ、一部の意識の高い学生のみでなく、一般の学生の参加をいかに増加させるか、魅力ある学生協働を模索していくことが、夢育むキャンパスライフの拠点の今後のあり方と進め方を決めることにもなります。

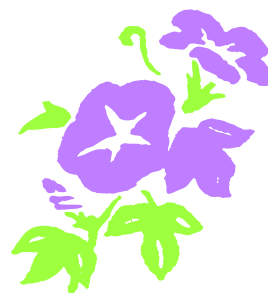


多くの大学で図書館のあり方が検討され、特色ある図書館の構築が図られています。山口大学図書館では、比較的早くから意識改革をはかりながら「知の広場」をめざしてきました。しかしながら、現在、図書予算の削減と図書館の狭隘化が大きな問題となり（これは山口大学の

みの問題ではなく全国的な問題ですが）、やむをえず図書や電子ジャーナルの削減まで行われ始めています。そのような状況下で、いかに有効にかつ効率的に教育・研究の基盤としての学術情報資料を整備していくかが図書館スタッフの力の見せ所であり、創造性の発揮できる場所と思っています。

図書館は図書館のためにあるのではなく、学生、教職員、さらには開かれた図書館として、地域のために存在しています。図書館を訪れる人々と図書館職員の協働で成り立っています。図書館には専門的職員が多いがゆえに、図書館内のみならず、多くの部署との連携活動がますます必要となってきます。図書館の主体性を活かしたうえでの大学教育機構、産学公連携・イノベーション推進機構との連携の推進こそが大学全体の発展の基礎となるものと思います。専門的であればあるほど広く目を開き、意識を高めていって欲しいと思います。幸いにも、山口大学では、図書館、メディア基盤センター、埋蔵文化財資料館が大学情報機構を形成しており、三者が協働とすみわけを上手に行い、各スタッフが力を合わせるにより、大きく発展できるものと信じております。

改革は一挙に進むものではなく、不断の変化の積み重ねの上に成り立つものと思っています。私もスタッフとともに力を合わせ、常に意識改革を重ねつつ、より良い山口大学図書館の構築をめざし、一層の努力を重ねていきたいと考えますので、全学の皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。



がんばってます!! 学生協働 (LA)

総合図書館では昨年度の4月から、キャリア教育支援の一環として図書館業務に関心のある学生さんに参加してもらって共に図書館サービス機能アップを考える「図書館学生協働 (Library Assistant)」を開始しました。

行っている業務は、貸出カウンターでのフロント対応や排架の乱れ直し・図書の修理等から、相談コーナーでは後輩達のレポートや資料探しの相談を受けたりしてます。

まだまだ始まったばかりですが、活動の一端を簡単に紹介します。



カウンターでの貸出返却対応



定例の業務報告会終了後、学食で食事をしながらの意見交換会



目録講習会風景



新入生オリエンテーションにおいて
(後輩を連れての館内ツアー)



1年生基礎セミナーにおいて検索入門講習会

大学情報機構 2007 (オープンライブラリー)

3 キャンパスで開催

大学情報機構では「大学情報機構 2007」と題して、図書館、メディア基盤センター、埋蔵文化財資料館が共同で、それぞれの特色を生かした企画を、大学祭の日程（平成 19 年 11 月 3 日姫山祭、11 月 10 日医学祭、11 月 24 日常盤祭）に合わせて催しました。

図書館では、「企画展示：写真と資料で見る山口大学の移り変わり」を各キャンパス（総合図書館・医学部図書館 1F・工学部 D 棟 1F）で開催しました。山口大学誕生以前の山口県高等教育の変遷、山口大学発足に向けての取組み、キャンパスの統合移転、移転後からこれまでの各地区の変化や学生生活の様子などを、山口大学 50 周年記念誌や医学部創立三十周年記念誌、工学部 50 年史、防長新聞、卒業アルバムなどを基に作成したパネルを展示して紹介しました。各キャンパスでの展示の構成は、山口大学の沿革などの共通するパネルを基にして、キャン

パスに合わせた選択構成を行うとともに、新制山口大学として誕生後（昭和 30 年代）の学生生活の様子を映画仕立てに記録された映像の上映も行いました。

大学祭にあわせて 3 つのキャンパスすべてで開催したことは、初めての試みでしたが、開催日の延べ 3 日を通して訪れた人数は 300 名を超えました。図書館展示に関するアンケートからは、全体を通して概ね好意的な回答をいただきました。具体には「格段に素晴らしい出来で製作者の意欲を感じる」「来年も楽しみにしています」といった励ましの言葉や「ひっそりすぎ」「もう少し地元市民にオープンにしてはどうか」「学術的展示が見たい」「珍しい蔵書が見たい」などのご意見・ご要望をいただきました。今後さらに改善・工夫を図り、可能な限り継続していきたいと考えています。



工学部図書館



総合図書館



医学部図書館



総合図書館

新入生オリエンテーション開催

山口大学には毎年約 2,000 名の新入生が入学します。医学部・工学部生は 1 年間を総合図書館のある吉田キャンパスで過ごし、2 年次に医学部は小串キャンパス、工学部は常盤キャンパスへと移ることとなります。新入生・進級生を迎え、それぞれの図書館で行われたオリエンテーションを報告します。

■総合図書館

4 月 2 日～8 日に新入生を対象としたオリエンテーションを実施しました。大学図書館の機能紹介と、学内ネットワークを使うための初歩を理解してもらう目的で行い、1,846 名 (参加率 91%) が参加しました。実施内容は、図書館の利用方法やサービスの紹介、館内ツアーです。今年の館内ツアーは、職員だけでなく、人文学部の司書課程の学生にもサポートしてもらいました。新入生にとっては、年齢の近い先輩から説明を受けることで、図書館がより身近に感じられたのではないかと思います。司書課程の学生からも、実際に説明することにより、今まで知らなかったサービスや気付かなかったことを知ることができ、勉強になったとの感想がありました。参加者からは「勉強するための設備が充実している」「ぜひ活用したい」等の声が聞かれました。

■医学部図書館

医学部図書館では 4 月 3、4、8 日の 3 日間に渡り、進級・編入生を対象に行い、345 名が参加しました。新たに医学部キャンパスで学ぶこととなる進級生には図書館利用の概要説明に加え、文献検索の紹介や文献複写・図書貸借の依頼方法など、図書館が提供しているサービスについても詳しく説明しました。

■工学部図書館

工学部図書館では、4 月 3 日～7 日に進級・編入生を対象に行い、669 名が参加しました。図書館利用の上での注意点やマナー、院生には 24 時間利用について紹介しました。



熱心に説明を受ける新入生



館内ツアーの様子（総合図書館）

平成 20 年度図書館利用ガイダンス (4～6 月)

図書館では、利用者の学習・研究支援のため、さまざまなガイダンスをクラス・個人にかかわらず実施しています。情報の利活用能力は自主的な学習を進めるためにも大学で学ぶには必須のものです。その基本はまず図書館を活用することから始まります。

【総合図書館】

・クラス・ゼミ単位ガイダンス

1 年生を対象とした入門編、3 年生以上を対象とした中級編を主に行なっています。入門編では図書館所蔵の図書・雑誌の探し方と提供しているサービスの紹介を主に、中級編では文献検索講習に力を注いでいます。今年度は人文学部と農学部より 1 年生の授業、「基礎セミナー」の一環としての申込が増えました。参加者からは「探し方が良くわかった」、「こんなに便利な機能があるとは知らなかった」と概ね好評を得ています。

学部	回数	参加数(名)
人文学部	5	175
教育学部	4	49
理学部	1	7
農学部	3	81
医学部	1	20
計	14	332

・個人ガイダンス

情報ラウンジや情報コンセントの利用方法および蔵書検索・文献検索等について個別

に実施しています。

4 月 435 名

5 月 410 名

6 月 213 名

・図書館案内

総合企画部広報チームとの連携により、各地高等学校等からの見学者に館内を一緒に歩きながら案内しました。

4～6 月 4 回 196 名

【医学部図書館】

4 月 21 日に、看護学科の四年生を対象として卒業研究のためのガイダンスを実施しました。内容は蔵書検索システム (OPAC) の使い方、データベースや電子ジャーナルの使い方および館内案内で 1 時間半にわたり説明しました。

三回生までと比べ、より深く図書館を活用してもらうための講習であり、90 名の参加者も真剣な表情で臨んでいました。

【工学部図書館】

・図書館利用ガイダンス

実施日：4 月 8 日～16 日

対象：時間外勤務者 ... 8 名

・文献検索講習会

実施日：4 月 2 日～5 月 29 日

対象：4 年生、院生、教職員 66 名



トピックス

●3館協定報告

山口県立山口図書館、山口大学図書館及び山口県立大学附属図書館の3館は、平成18年度に館種を越えたサービスの展開を行うため、相互協力協定を締結しております。具体的な事業としては、「相互貸借及び図書館資料の複写サービスの実施」、「レファレンスツール等の共同作成の確立」及び「図書館サービスに関する人材育成」を掲げており、年度当初に事業計画を策定し、年度終了時には報告書を刊行し成果を公表しています。

平成19年度の報告書によれば、相互貸借や複写サービス等の物流で本学より65件の貸出が、借入れでは県立図書館の遠隔地返却システムの利用を含め184件の利用がありました。これは、平成18年度の反省を踏まえ、物流の便を月2回から週2回へと拡大したことが要因ではないかと考えられます。また、職場研修では本学より3名が他館へ研修に出向き、他館より1名を本学へ受け入れました。このほか、各館が開催した研修会へ参加するなど協定への理解が深まりつつあります。

しかし、一般利用者への浸透具合はまだ十分とは言えず、どう宣伝してゆくかが、各館とも共通の悩みとして保有しており、今後の検討課題となっております。



●教員推薦図書ポータル

図書館では、教員の著作物や教員が推薦する図書を効果的に情報提供するため、それまで本学のWebページの随所に掲載されたものを、平成19年度より図書館Webページ上に「教員推薦図書ポータル」を開設し、情報発信できるシステムを構築しました。

「教員から寄せられた著書」のコーナーでは、教員各位の協力を得ながら、教員が書いた著作物を、自らの紹介文入りで公開するもので、掲載された著作物は図書館所蔵目録(OPAC)へリンクを貼り、所在情報が瞬時に分かる仕組みとなっております。

また、「学生に読んでほしい図書」のコーナーでは、学生が卒業するまでに読んでほしい図書を、同じく教員の推薦文入りで紹介するもので、掲載された図書は図書館へ備え付けることにしております。



教員推薦図書ポータル
http://www.lib.yamaguchi-u.ac.jp/chosaku/

未だ、開設して間もなく周知が行き届いていないこともありますが、教員各位に投稿を呼びかけ、学生諸氏には在学中に是非ともこのページを開いていただくことを願っております。

本学関係教員著作物寄贈図書

寄贈者 (寄贈順)	書名
瀬戸 厚 (人文学部)	憲兵政治：監視と恫喝の時代
小川 勤 (大学教育センター)	デジタル時代のアナログ力：問われる現代社会の人間力
辻 正二 (人文学部)	時間学概論

平成 20 年度図書館関係委員会名簿

●図書館専門委員会

阿 部 憲 孝 (図書館長)
 三 池 秀 敏
 (大学情報副機構長)
 糸 長 雅 弘
 (大学情報副機構長)
 根 ヶ山 徹 (副館長
 (総合図書館担当))
 佐 ヶ木功典 (副館長
 (医学部図書館担当))
 福 永 公 壽 (副館長
 (工学部図書館担当))
 池 園 宏 (人文学部)
 村 上 林 造 (教育学部)
 李 海 峰 (経済学部)
 西 井 淳 (理学部)
 早 崎 峯 夫 (農学部)
 王 躍
 (メディア基盤センター)
 田 畑 直 彦
 (埋蔵文化財資料館)
 牧 村 正 史 (情報環境部長)
 板 谷 茂 (情報企画課長)
 鈴 木 太 郎 (学術情報課長)
 吉 光 紀 行 (情報推進課長)

●企画戦略プロジェクト

(学術機関リポジトリ)
 根 ヶ山 徹 (座長)
 佐 ヶ木功典 (副館長)
 福 永 公 壽 (副館長)
 池 園 宏 (人文学部)
 村 上 林 造 (教育学部)
 李 海 峰 (経済学部)
 西 井 淳 (理学部)
 早 崎 峯 夫 (農学部)
 板 谷 茂 (情報企画課長)
 鈴 木 太 郎 (学術情報課長)
 吉 光 紀 行 (情報推進課長)

●総合図書館部会

根 ヶ山 徹 (副館長)
 池 園 宏 (人文学部)
 村 上 林 造 (教育学部)
 李 海 峰 (経済学部)
 西 井 淳 (理学部)
 早 崎 峯 夫 (農学部)
 鈴 木 太 郎 (学術情報課長)

●医学部図書館部会

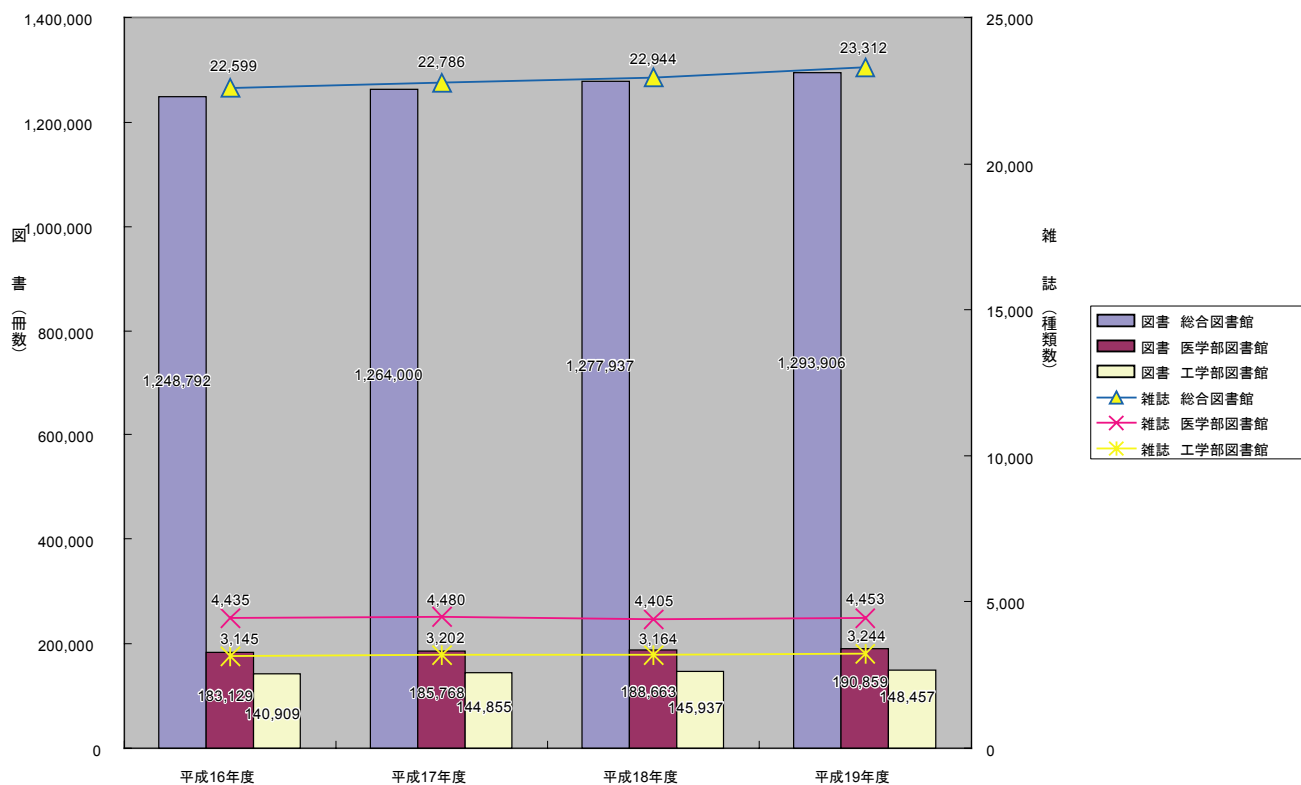
佐 ヶ木功典 (副館長)
 谷 田 憲 俊 (医学部)
 田 口 敏 彦 (医学部)
 常 岡 英 弘 (医学部)
 西 垣 昇 治 (医学情報係長)

●工学部図書館部会

福 永 公 壽 (副館長)
 佐 伯 壮 一 (工学部)
 松 尾 栄 治 (工学部)
 山 吹 一 大 (工学部)
 堀 田 昌 志 (工学部)
 松 元 隆 博 (工学部)
 山 本 正 幸 (工学部)
 田 中 一 宏 (工学部)
 嶋 村 修 二 (工学部)
 赤 野 徹 (工学情報係長)

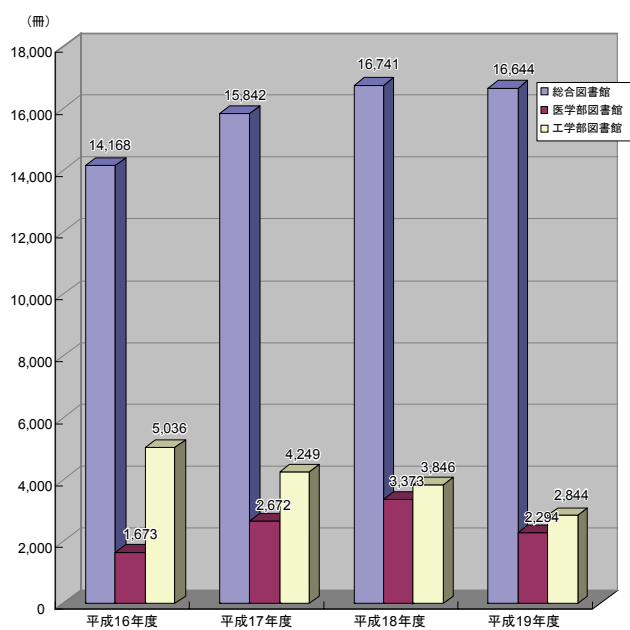
図書館業務統計(平成 16～19 年度)

○蔵書数

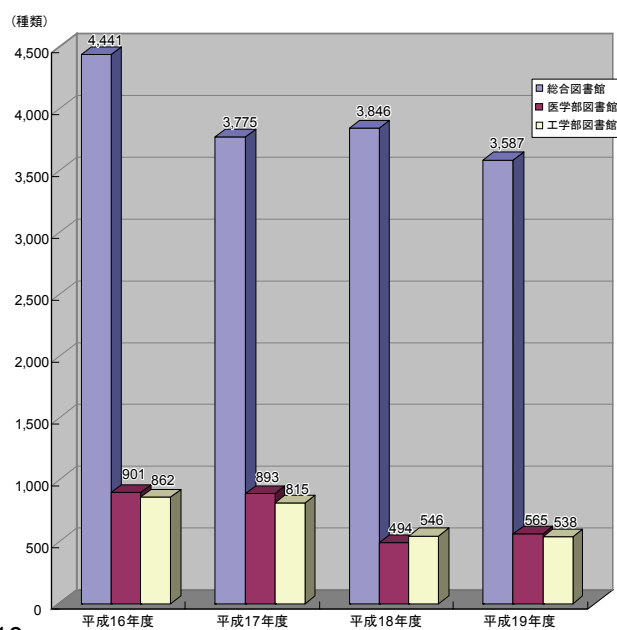


○受入数

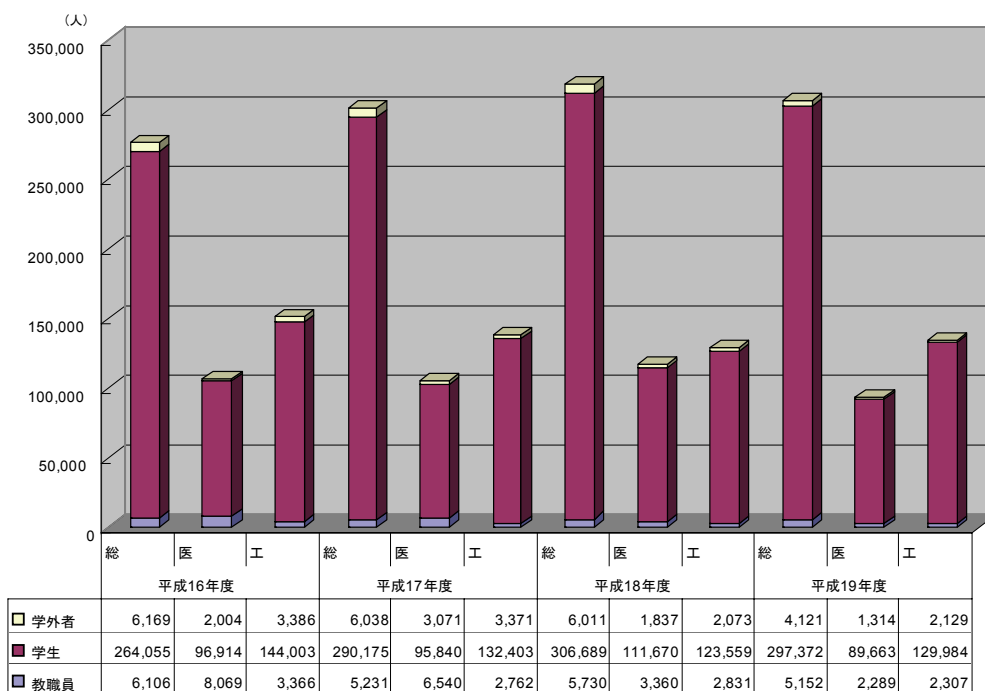
【図書】



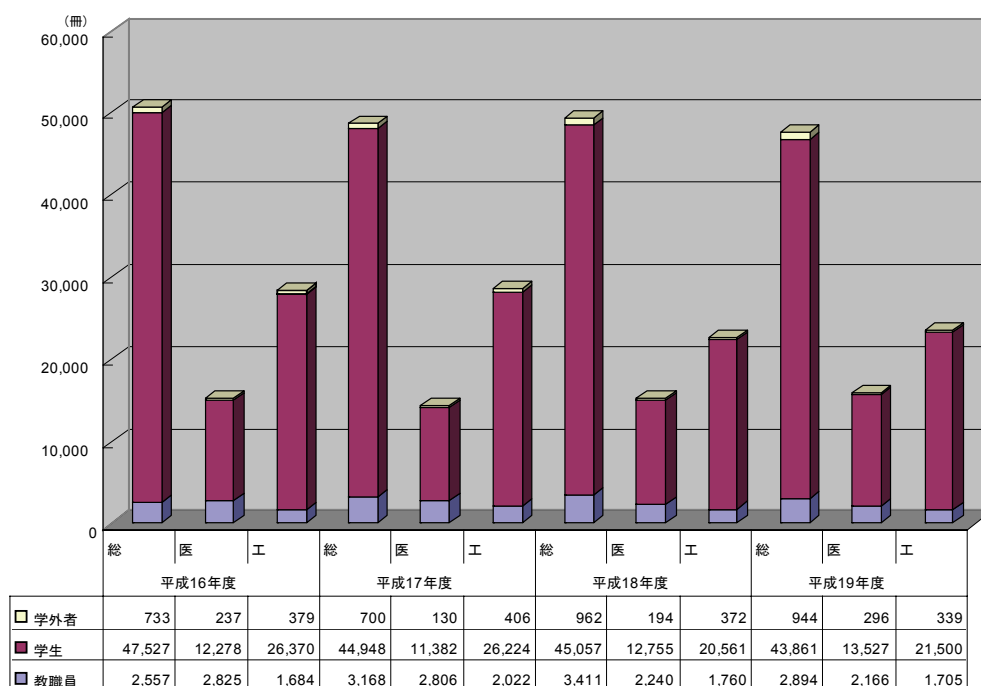
【雑誌】



○入館状況

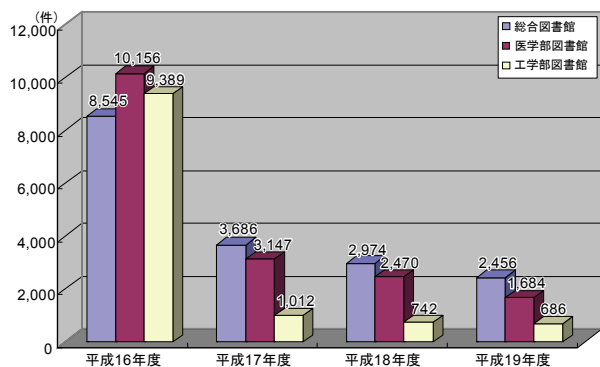


○貸出冊数

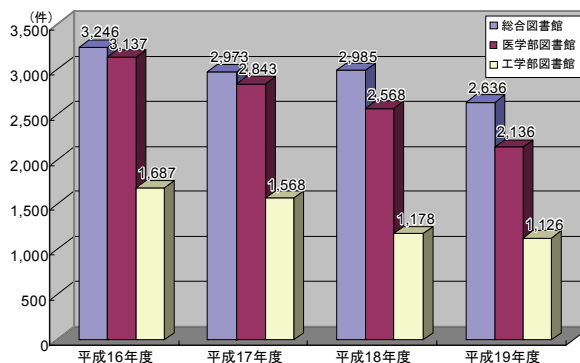


○相互協力

【受付】



【依頼】



◆会議

【学外】

20.4.17	第 56 回中国四国地区大学図書館協議会総会 (於 愛媛県県民文化会館)
4.18	第 35 回国立大学図書館協会中国四国地区協 会総会(於 愛媛県県民文化会館)
5.23	山口県図書館協会役員会 (於 山口県立山口図書館)
5.29-30	NPO 法人日本医学図書館協会総会 (於 京王プラザホテル札幌)
6.25-26	55 回国立大学図書館協会総会 (於 仙台国際センター)
6.26	山口県図書館協会第 1 回理事会 (於 山口県立山口図書館) 山口県図書館協会定期総会 (於 山口県立山口図書館)

【学内】

20.5.28	第 1 回図書館専門委員会
6.10	第 1 回総合図書館部会
6.10	第 1 回企画戦略プロジェクト(YUNOCA)
6.17	第 1 回工学部図書館部会

◆研修

20.5.19-22	新規採用職員研修 (於 山口大学、山口徳地青少年自然の家) 参加者：永田一朗
6.25	第 4 回国立大学図書館協会マネジメント・セ ミナー(於 仙台国際センター) 参加者：阿部憲孝、牧村正史、鈴木太郎

◆人事異動

20.3.31

任期満了	副図書館長	根ヶ山 徹
任期満了	副図書館長	芳原 達也
定 年	情報環境部情報企画課資料契約係長	栗谷 年夫
定 年	情報環境部情報企画課総務係総務主任	鹿兒島 美千代
辞 職	情報環境部長	大場 高志 (一橋大学)

4.1

併 任	副図書館長	根ヶ山 徹
併 任	副図書館長	佐々木 功典
採 用	情報環境部長	牧村 正史 (名古屋大学)
昇 任	情報環境部学術情報課情報支援係長	深川 昌彦 (情報環境部学術情報課情報支援係情報支援主任)
配 置 換	情報環境部情報企画課資料契約係長	埴口 健司 (医学部総務課情報係長)
配 置 換	情報環境部情報企画課総務係総務主任	久光 美恵 (人文学部・理学部総務企画係総務企画主任)
配 置 換	医学部総務課職員係長	久保 梓 (情報環境部学術情報課情報支援係長)
帰 任	情報環境部学術情報課医学情報係長	西垣 昇治 (宇部工業高等専門学校)
帰 任	広島大学	西本 篤夫 (情報環境部学術情報課医学情報係長)

5.15

任期満了	図書館長	福政 修
------	------	------

5.16

併 任	図書館長	阿部 憲孝
-----	------	-------

編集後記

本号では、阿部新図書館長に山口大学図書館のビジョンを語っていただきました。また同時に、現在行っている学生協働活動や図書館機能を有効に利用するための様々な情報支援サービスを中心に紹介しました。図書館は、利用者の皆さんに使っていただいてこそその施設です。利用者の皆さんからのご意見・ご要望をお待ちしております。

山口大学図書館報 「Library News」 No.77

2008年7月1日発行

<http://www.lib.yamaguchi-u.ac.jp/>

編集・発行 山口大学図書館

〒753-8511 山口市吉田1677-1

TEL. (083)-933-5183 FAX. (083)-933-5186